

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170504021		
法人名	株式会社 アムケア		
事業所名	グループホーム まどべⅡ		
所在地	札幌市豊平区月寒東3条7丁目1-6		
自己評価作成日	平成25年3月1日	評価結果市町村受理日	平成25年5月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0170504021-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一年を通して、散歩に出かけることを日課としており、季節を感じながら、地域の方との交流を図り、社会から孤立しないよう支援しています。認知症により出来ないが増えて来ても、共同生活の中で家事等の作業を入居者と職員と一緒に、「できること」「できないこと」を見極めながら、さりげない支援を心がけています。食事は大切な楽しみの一つですので、献立には旬の食材を積極的に取り入れ、季節感とバリエーションに富み、入居者に喜ばれています。まどべⅡの理念に基づき、決して職員本位にならず入居者の個々のペースに合わせて、ゆったり時間が流れ、尊厳を守り、地域の一員としての社会的交流を支えながら、一日一日を大切に暮らすお手伝いをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地下鉄の主要2線の各駅から徒歩圏にあり、近くにコンビニやスーパーがあり買い物に便利で、公園も3か所あるなど散歩にも便利な環境である。3階建ての建物の2・3階がグループホームとなっていて、トイレや洗面所が車椅子対応で浴室も広くて使いやすいなど設備が整っている。地域との付き合いが盛んで、夏期には毎月、職員と利用者が一緒に町内の草取りをし、事業所の行事には地域の方を招待している。また、近くの保育園児との交流が盛んで、保育園からお正月の餅つきや卒園式に招待され、ハロウィンなどの行事には事業所を訪ねてくれるので利用者はお菓子を通すのを楽しみにしている。総合施設長が職員の教育に熱心で、毎月の会議に必ず参加して職員の意見を聞き、アドバイスしている。職員は利用者に対して家族のように優しく接しており、言葉で思いを伝えられない利用者には、表情や仕草で思いや意向を把握し、得た情報を細かく記録し全職員で共有している。事業所としての終末期の方針を確立しており、早い段階から利用者や家族と話し合い、方針を共有している。現在までに4名を看取っている。災害対策では、消防署の協力を得て年2回の避難訓練と毎年の救急救命訓練、災害時の備品も用意されている。食事も利用者が楽しみにしている。食器にこだわり、旬の材料を取り入れた栄養バランスのよい美味しい食事を提供している。週1回のお好みメニューもある。日常的な外出が非常に多く、季節を問わず毎日でも散歩ができる。お花見やさくらんぼ狩り、ショッピングデーなど外出行事もある。

V. サービスの成果に関する項目(2階ユニット わらべうたアウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット わらべうた)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったり寄り添い慈しみ合って暮らしていきたい自分らしく誇り高く地域の一員としていきいきと」の理念を皆で共有し、カンファレンス勉強会で意見交換している。また、居間やスタッフルームに掲示している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた法人の理念が掲げられ、毎月のカンファレンスやミーティング、勉強会などで総合施設長が全職員に確認している。事業所独自の理念はないが、現在の法人理念を事業所独自の理念としたいと全職員が考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、会議や行事に参加しあっている。また、毎日の散歩の時にも交流している。	管理者が町内会の総会に毎回出席している。夏期には毎月、職員と利用者が一緒に町内の草とりをしている。また、事業所の開設記念日やもみじ祭に地域の方を招待しており、近くの保育園児との交流も盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の時等、相談や質問を受けており、アドバイス等させて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価等の評価結果等を報告している。また毎回意見交換は行っている。	運営推進会議には町内会役員、民生委員、包括支援センター職員、家族などが参加して意見をもらっている。避難訓練などの行事と同一日に開催するなど多くの方が参加できるように工夫して、議事録も全家族に配付しているが、現在は年間5回の開催で、開催月の間隔も平均していない。	今後は、2か月に1回以上の開催を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所へは頻繁に訪問して担当者と情報交換をしている。	管理者は、市や区の担当者を月に2回以上は訪問し、相談や意見交換している。2年前から市内の中学生の職場体験に協力して多くの生徒を受け入れている。昨年も多くの生徒が体験学習を行った。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者を含め、全職員が身体拘束をしないケアについての勉強会に参加している。また夜間以外は玄関に施錠していない。	身体拘束についての外部研修資料をもとに、毎年身体拘束の具体的な行為について内部研修を行い、職員も内容をよく理解している。玄関は日中は施錠せず、センサーで人の出入りを把握している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	代表者を含め、全職員が虐待防止法等についての勉強会に参加している。		

グループホーム まどべⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット わらべうた)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修に参加し、参加者は全職員に研修内容を報告している。入居者の方には成年後見制度を利用している方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項説明書や契約書を渡すとともに口頭でも説明している。退居(解約)時には話し合い、必要なフォローをしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等外部者がいる時にも意見をうかがっている。	家族等が頻繁に訪問してくれるので、その都度意見や要望を聞いている。また、お便りを毎月送付している。お便りは個人別の内容で、毎回職員と管理者が手書きで近況や気づいたことをコメントし、写真も掲載している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、毎月定例の勉強会やカンファレンスに出席し、職員の意見を聞き入れ、運営に反映している。	カンファレンスやミーティングの際は、毎回総合施設長が参加し、職員の意見を聞いている。職員同士の意見交換も活発で予定時間を超えることも多い。昨年はメンタルヘルスの専門家を講師に呼んで話をしてもらい試みもあり、今後も継続予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々の状況を把握し評価している。また、向上心を持って働けるよう、整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表は職員の力量に合った外部研修に参加できるよう積極的に進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌GH合同事業体に加入しており、研修会に参加することでネットワークが出来、情報交換しながら、サービスの質の向上に結び付けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット わらべうた)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が安心してサービスの利用が出来るように、働きかけ話し合いをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の方が安心してサービスの利用が出来るように、こまめに連絡をとり、話しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	代表者と管理者はサービスの利用前に、ご本人とご家族の状況を見極め、他のサービスの利用の必要性の有無も視野に入れて話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご本人と一緒に、家事等を教わる場面作りをして尊敬や感謝の気持ちを持って接している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族関係の絆も大切に、情報交換しながら共に支えていく意識を共有できるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所の話題を提供するなどしている。	知人や友人が訪問してくれることを歓迎し、お茶を提供してゆっくり話してもらっている。また、家族の協力を得て、馴染みの美容室やレストランに連れて行ってもらうこともあり、お墓参りや結婚式にも参加している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、孤立しないように配慮している。また、入居者同士が助け合える場面作りをしている。		

グループホーム まどべⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット わらべうた)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族の方の来訪があったり、関係は継続している。相談を受けフォローする事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族等から、生活歴や嗜好等を聴き、ご本人の思いや希望等を把握するように努めている。	言葉で表出できない利用者には、「喉が渇いているのですか」など具体的な言葉で尋ね、表情や仕草で、思いや意向を把握している。時には、家族や他の職員の意見も聞きながら得た情報は日々記録し、3か月毎に更新する「アセスメントまとめシート」にも記載し全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の記録等を活用し全職員で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に観察し、申し送りや記録で情報共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスには全職員が参加し、本人本位のケアプランを作成している。	3か月に1回、全職員で書く利用者毎にモニタリングを行い、カンファレンスで意見を集約して介護計画を見直している。日々の記録は介護計画を意識しながら記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	具体的な様子等を書き込む、個人記録があり、新たなケアプラン作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ターミナルケアにも対応しており、新たに在宅診療を行う医師と連携し、ご本人や家族のニーズに応えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の住民やボランティアの方と協力し、楽しい場面を提供できるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月、提携医の往診がある。その他、個々の状況に応じて、提携医以外の医療機関にも通院介助している。	従来のかかりつけ医を選択することは自由だが、複数の協力医療機関の医師や歯科医が往診してくれるので、殆どの利用者が受診している。医療情報は「医療関係記録」で共有している。	

グループホーム まどべⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット わらべうた)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と情報共有している常勤の看護職員が24時間連絡が取れる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、早期退院を目指し、こまめな情報交換、働きかけをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合の対応に関わる指針を説明の上、同意書をもらっている。また、ご本人や家族の希望も聴いている。現在、ターミナルケアを行っている方もいる。	利用開始時に、本人・家族に「重度化した場合の対応に係る指針」を示し、説明して同意書に署名捺印を得ている。状況が変化した場合には、別途「終末期の生活支援に関する覚書・同意書」で詳しく説明し同意書に署名捺印をもらっている。医師や説明者など同席者も記録している。現在までに4名を看取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が、採用時研修で学んでいる。消防署と連携し、定期的に訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、地域の住民も参加していただき、避難訓練を行っている。	消防署の協力を得て夜間対応の避難訓練を年2回行っており、町内会長や地域の方にも参加してもらっており、救急救命訓練も定期的に行っている。災害時の備品も用意されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の念を持ち、丁寧な言葉かけで接している。	利用者への呼びかけは、名前に「さん」付けとし、家族のように親しみを込めている。気になる言葉遣いがある時は管理者・職員間で注意している。個人情報の書類関係は、スタッフルームの書棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを汲み取る努力をし、自己決定できる場面作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースや体調に合わせた過ごし方をして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを整えたり、季節や天候に合わせたその方らしいおしゃれが出来るようにしている。		

グループホーム まどベⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット わらべうた)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や、皆で共有できる話題を提供し、楽しみながら食事している。また、食事の支度も一緒にやっている。	栄養バランスや彩りを添えて、目でも楽しめるように工夫し、食べられる量も調整している。開設記念日には豪華なお弁当を取り寄せている。簡単な一品を作れる利用者もあり、能力に応じて食事の作業に参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食分量や水分量を記録し把握、個々に摂取量を確保するように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、チェック表を元にトイレ誘導している。	基本的にトイレでの排泄を支援し、看取りを行っている時も、利用者の希望や状況に応じて2人介助でトイレに誘導することもあった。誘導時には利用者に合せた声かけで羞恥心に配慮している。時間誘導の工夫で、徐々にリハビリパンツから布下着までに改善した例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、水分量チェックや運動を行っている。また医療機関と連携して、状況に応じた下剤のコントロールもしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者と職員が1対1で会話を楽しみながら入浴している。	日曜日の足浴日以外は毎日午後から入浴している。週に2~3回の入浴を支援し、1日3人を目標に、ゆっくり入れるように配慮している。同性介助の意向を聞き、安心して入浴が楽しめるように心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日40分くらいの昼寝をする方もいる。昼夜逆転しないよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々が服用している薬について、定例の勉強会時等に情報習得している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを見極め、役割を提供している。また、趣味のボランティアの先生と協力して、楽しい時間を提供している。		

グループホーム まどべⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット わらべうた)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一年を通して、散歩や買い物を日課としている。また季節の外出行事もあり、花見、さくらんぼ狩り、レストランで外食などにでかけている。個々の希望に合わせ、職員や家族の付添いのもいつでも出かける事が出来る。	近くにある3か所の公園や周囲を散歩したり、買い物に出かけるなど、毎日のように外気に触れている。外出行事を計画し、花見やさくらんぼ狩りなどを楽しんでいる。冬期も雪道から利用者1人に職員1人の対応で外出し、外に出る習慣が楽しみになっている。外出が多いので、風邪を引かなくなったなど、健康にもよいと家族から喜ばれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金を持つことの大切さは理解しているが、現在お金を所持したり、使える方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	機会ごとに電話できるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアはバリアフリーである。また、季節を感じるフラワーアレンジや、装飾品を飾り、心地よい空間づくりを意識している。	共用空間は広々としていて窓が多くて明るい。食堂には、利用者が出し入れしやすいように昔風の食器棚を設置し、居間には畳敷きのスペースもあり、好きな場所で過ごせるようにソファの配置を工夫している。壁には利用者の作品や絵を飾り、階段踊り場の出窓にもフラワーアレンジを飾り家庭的な雰囲気である。加湿器を設置し温湿度も管理している	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置等を工夫することにより、気の合う方同士過ごせたり、一人になれたりできるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等をお部屋に持ってきていただき、環境の変化を最小限に抑えるように努めている。	居室入り口に好みの暖簾や表札で自室が分かるように配慮されている。室内は広く、大きな仏壇や茶ダンスなど、馴染みの家具類が持ち込まれている。今まで暮らしてきた背景が分かるような家族の写真も貼っており、自宅の延長のような、個性的な居室づくりになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札やのれんをかけて、分かりやすい工夫をしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170504021		
法人名	株式会社 アムケア		
事業所名	グループホーム まどべⅡ		
所在地	札幌市豊平区月寒東3条7丁目1-6		
自己評価作成日	平成25年3月1日	評価結果市町村受理日	平成25年5月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「2階ユニット わらべうた」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0170504021-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年3月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(3階ユニット おとぎばなしアウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階ユニット おとぎばなし)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったり寄り添い慈しみ合って暮らしていきたい自分らしく誇り高く地域の一員としていきいきと」の理念を皆で共有し、カンファレンス勉強会で意見交換している。また、居間やスタッフルームに掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、会議や行事に参加しあっている。また、毎日の散歩の時にも交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の時等、相談や質問を受けており、アドバイス等させて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価等の評価結果等を報告している。また毎回意見交換は行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役所へは頻繁に訪問して担当者と情報交換をしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者を含め、全職員が身体拘束をしないケアについての勉強会に参加している。また夜間以外は玄関に施錠していない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	代表者を含め、全職員が虐待防止法等についての勉強会参加している。		

グループホーム まどべⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階ユニット おとぎばなし)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修に参加し、参加者は全職員に研修内容を報告している。入居者の方には成年後見制度を利用している方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項説明書や契約書を渡すとともに口頭でも説明している。退居(解約)時には話し合い、必要なフォローをしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等外部者がいる時にも意見をうかがっている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、毎月定例の勉強会やカンファレンスに出席し、職員の意見を聞き入れ、運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々の状況を把握し評価している。また、向上心を持って働けるよう、整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表は職員の力量に合った外部研修に参加できるよう積極的に進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌GH合同事業体に加入しており、研修会に参加することでネットワークが出来、情報交換しながら、サービスの質の向上に結び付けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階ユニット おとぎばなし)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が安心してサービスの利用が出来るように、働きかけ話し合いをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の方が安心してサービスの利用が出来るように、こまめに連絡をとり、話しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	代表者と管理者はサービスの利用前に、ご本人とご家族の状況を見極め、他のサービスの利用の必要性の有無も視野に入れて話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご本人と一緒に、家事等を教わる場面作りをして尊敬や感謝の気持ちを持って接している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族関係の絆も大切に、情報交換しながら共に支えていく意識を共有できるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所の話題を提供するなどしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、孤立しないように配慮している。また、入居者同士が助け合える場面作りをしている。		

グループホーム まどべⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階ユニット おとぎばなし)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族の方の来訪があったり、関係は継続している。相談を受けフォローする事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や日々の会話等から、ご本人の思いを汲み取り、ご本人の視点で支援できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	カンファレンスには全職員が参加し、情報を記録、共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々観察し、申し送り、記録等で情報共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスに全職員が参加し、三ヶ月ごとに見直ししている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の詳しい様子を個人記録に書き込んでいる。それを新たなケアプラン作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	提携医療機関以外でも連携して頂いている医療機関がある。ご家族の都合がつかない場合等、職員が通院介助する。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の住民やボランティアの先生と一緒に楽しめる場面作りをしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前より通院されていた医療機関がある場合は希望通り通院を続けている。職員が通院介助する事も多い。		

グループホーム まどべⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階ユニット おとぎばなし)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と情報共有している常勤の看護職員が24時間連絡が取れる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、早期退院を目指し、こまめな情報交換、働きかけをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合の対応に関わる指針を説明の上、同意書をもっている。また、ご本人や家族の希望も聴いている。、ターミナルケアを行ったことがある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が、採用時研修で学んでいる。消防署と連携し、定期的な訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、地域の住民も参加していただき、避難訓練を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉かけで接し、誇りやプライバシーを損ねないように配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを汲み取る努力をし、自己決定できる場面作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望や体調に合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をしたり、その方らしいおしゃれが出来るよう支援している。		

グループホーム まどべⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階ユニット おとぎばなし)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や、好みの献立を聞いて楽しみながら食事している。また、食事の支度や片付けも一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し把握、個々に摂取量を確保するように申し送りもしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、チェック表を元にトイレ誘導している。羞恥心にも配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、水分量チェックや運動を行っている。また医療機関と連携して、状況に応じた下剤のコントロールもしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望される方が多く、出来る限り支援している。また入浴時はゆっくり会話を楽しんでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	メリハリのある生活を心がけており、夜間気持ち良く眠れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々が服用している薬について、定例の勉強会時等に情報習得している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を提供することで居場所があると感じて頂いている。また、趣味のボランティアの先生の来訪を楽しみに待たれている方が多い。		

グループホーム まどべⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階ユニット おとぎばなし)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一年を通して、散歩や買い物を日課としている。また季節の外出行事もあり、花見、さくらんぼ狩り、レストランで外食などにでかけている。個々の希望に合わせ、職員や家族の付添いのもといつでも出かける事が出来る。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方がいる。ご自分で好きな物を選び買物を楽しまれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	機会ごとに電話できるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーはバリアフリーである。また、季節を感じるフラワーアレンジや、装飾品を飾り、心地よい空間づくりを意識している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置等を工夫することにより、気の合う方同士過ごせたり、一人になれたりできるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等をお部屋に持ってきていただき、環境の変化を最小限に抑えるように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札やのれんをかけて、分かりやすい工夫をしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム まどべⅡ

作成日：平成 25年 5月 10日

市町村受理日：平成 25年 5月 22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	昨年度の運営推進会議の開催が5回だった。	今年度は6回、運営推進会議を行う。	各ユニットごとに運営推進会議委員を任命して、委員を主体に企画実行を進めていく。	平成25.4.1 ～平成 26.3.31
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。